

4-6. 集落別ヒアリング調査

(1) 才谷

調査日時	平成 23 年 12 月 11 日
調査対象者	才谷部落 部落長 他 5 名

ヒアリング内容

1) 住民の状況・特徴について

(人口・世帯)

- ・40 世帯
- ・若い人は、町へ出て行っている。

(年齢)

- ・高齢化が進み、60 歳代が多い。
- ・独居老人は少ない。子どもがいずれ帰ってくるからあまり心配していない。

2) 交通手段について

- ・マイカー中心。今はみんな運転している。80 歳代でも運転している人がいる。
- ・タクシーを使う人は、2、3人である。
- ・デイサービスの車が入ってきている。

(行き先)

- ・買物は特定のところはない。各々で好きな所へ行っている。後免・土佐山田・高知市内などの安くて大きい商業施設で、仕事帰りなどに買ってくる。
- ・主な行き先は、マルナカ、パステ、高知大学医学部附属病院、JA高知病院、その他、後免中心部などである。

3) 公共交通の活用について

- ・バスには乗らない。料金が安い。

4) 乗合タクシー（デマンド運行）について

- ・乗合タクシーについては、この1、2年は必要のない話。10年先の話ではないか。（5年経つと状況が変わるという意見もある。）
- ・皆、自分の車のほうが良い。デマンドの需要はないだろう。
- ・同居が多いし、兄弟・子どもなど、誰かの車があるので困っていない。

(2) 稲生（衣笠）

調査日時	平成 23 年 12 月 12 日
調査対象者	稲生地区衣笠部落 部落長

ヒアリング内容

1) 住民の状況・特徴について

(人口・世帯)

- ・約 150～160 人である。都市計画の縛り（市街化調整区域）があるので、若い人は、外へ出て行っている。人口が増えることはないだろう。
- ・全体 60 戸のうち、若い人は 10 戸ぐらいだ。小学生は 6 人、保育園児 2 人、赤ちゃんが 2 人いる。
- ・稲生の石灰産業も縮小傾向で、全体人口も少なくなった。稲生では家を建てられないので、従業員は他所で家を建てている。
- ・小学校も全校生徒 80 人である。

(年齢)

- ・高齢者は多い。施設に 5 人程度入所している。自宅介護の人もある。

2) 交通手段について

- ・たいていの人はマイカーである。ほとんどの人が免許を持っている。学生は自転車通学、運転できない人はタクシーを利用している。

(行き先)

- ・買物の主な行き先は、十市パークタウンのサンプラザ、市中心部のパステ、サニーアクシスなど。
- ・通院は、いろいろである。高知市の「いずみの病院」は送迎車を出している。
- ・郵便局、よろず屋的な魚屋が一軒あるが、農協・銀行は撤退・移転してしまった。

3) 公共交通の活用について

- ・土佐電気鉄道のバスはバス停が遠いので、あまり使われない。
- ・20 年ほど前、この地区にも土佐電気鉄道のバスがあったが、客が乗らないので 1、2 年で廃止になっている。

4) 乗合タクシー（デマンド運行）について

- ・公共交通に関して、欲しいとかそんな声はない。あったほうが良いのだろうが、たぶん利用しないだろう。
- ・交通に関して、不自由はない。皆ひんぱんに外出しないし、出かけるときはマイカーや運転しない人も家族の車やタクシーがある。

(3) 稲生（小久保）

調査日時	平成 23 年 12 月 12 日
調査対象者	稲生地区小久保部落 公民館長

ヒアリング内容

1) 住民の状況・特徴について

(人口・世帯)

- ・全体で 65 世帯である。
- ・若い世代は、緑ヶ丘などへ家を建てて出て行く。

(年齢)

- ・50・60 歳代が多い。若い人は少ない。

2) 交通手段について

- ・マイカー中心である。運転できない人は、タクシーを利用している。
- ・土佐電気鉄道のバスは、通勤利用は少ない。高齢者が利用の中心だ。
- ・後期高齢者が免許を返納するようになると、大変になるだろう。

(行き先)

- ・買物の主な行き先は、十市パークタウンのサンプラザが多い。マイカー、タクシー、徒歩、自転車などでも行く。
- ・南国市では後免が中心部だが、この地区は高知市に近い。生活スタイルが、高知を中心としている。高知市の一部だと考えても良い。

3) 公共交通の活用について

- ・マイカー中心になったが、公共交通は、土佐電気鉄道のバスが主力のバスラインである。マイカー時代以前は、このバス路線は、土佐電気鉄道のドル箱だった歴史がある。

4) 乗合タクシー（デマンド運行）について

- ・公共交通に関して、福祉の座談会で、“後免行きがない”などの意見があった。
- ・バスは循環させたらどうか。広域農道が開通すれば J A 高知病院の利用も考えられる。

5) その他

- ・地区を住みやすくするためには、市街化調整区域をはずす必要があるだろう。

(4) 白木谷

調査日時	平成 23 年 12 月 13 日
調査対象者	白木谷地区 部落長

ヒアリング内容

1) 住民の状況・特徴について

(人口・世帯)

- ・全体で約 350 人である。八京地区を入れると、400 人前後である。

(年齢)

- ・65 歳以上が3割強おり、70 歳以上が2割強で、100 人以上いる。

2) 交通手段について

- ・マイカー中心である。だいたい皆免許を持っている。高齢の女性で運転できない人は、近所の人、子ども、親戚に頼むか、タクシーを利用している。
- ・タクシーで出かける人は見かける。
- ・白木谷にもデイサービスの送迎車は入ってきている。

(行き先)

- ・買物の主な行き先は、高知市内の一宮、スーパーなかざね、Aコープくれだ、その他は後免・土佐山田など。
- ・通院は、救急に関しては高知市内、掛かりつけはいろいろで、主に後免・高知市内、その他は久礼田の吉川医院、高知大学医学部附属病院などである。

3) 公共交通の活用について

- ・公共交通が欲しいと言う声は耳にする。
- ・土佐電気鉄道がバスの運行を止めたのは乗客が乗らないからである。朝・昼・晩だけ走らせるくらいでは使いにくい。最後のころは、1 便0~2人程度しか乗っていなかった。マイカーに慣れると、バスを待つのは難しい。

4) 乗合タクシー（デマンド運行）について

- ・幹線（県道）をもしバスが走っても、そこへ利用者が出てくる足をどうするかが課題だ。それぞれの集落で幹線に近い人ばかりではない。幹線から上のほうへ 400~500m上がっていったところにも住んでいる人がいる。タクシーの乗り合わせで、庭先まで来てくれたら、高齢者にとっては一番良いのではないか。

(ニーズ)

- ・白木谷には、10 の小部落があり、年3回組長会をするが、公共交通はあったら良いという意見は皆持っているが、すぐにやれという意見はない。
- ・独居で車を持っていない人は5人ぐらいおり、使いそうな人は10人ぐらいいる。

(運営等)

- 白タクみたいな運営形態はあるのか。
⇒自治会運行で申請すれば可能です。運転手はボランティア、運賃は実費レベルです。行き先についてはエリア運行でわりと柔軟に対応できます。
- 安ければ、外出の頻度は増えるかもしれない。

(5) 上倉

調査日時	平成 24 年 1 月 16 日
調査対象者	上倉部落 部落長

ヒアリング内容

1) 交通手段について

- ・この地区には、公共交通の便がない。車があれば快適だが、車を運転できなくなれば高齢者は（地区から）出て行かざるを得ない。

(行き先)

- ・買物の主な行き先は、人によってまちまちである。南国市内のパステやサンシャインなど。
- ・通院に関しても、人によってまちまちである。高知大学医学部附属病院、高知市内の生協病院、植野の吉川診療所など。

2) 乗合タクシー（デマンド運行）について

(意向)

- ・高齢者の買物・通院の便について、懇談会で昨年市長にお願いしたところである。切羽詰まったというわけではないが、将来、体が弱ったときに公共交通に乗れるという形があると安心である。
- ・今は全員、軽自動車で動いている。しかし、85 歳の人、病気の人はいずれ車に乗れなくなる。今年の4月までに乗れない人が出てくる可能性もある。

(利用見込み)

- ・どれくらい利用するかはわからない。必要なときだけ、予約があれば迎えに来る形にしたほうが良いのではないか。
- ・高齢者は 10 名ほどおり、若くて 65 歳。

(料金)

- ・料金はどれくらいになるのだろうか。無料は無理だろうが、タクシーより安くしてほしい。

(6) 黒滝

調査日時	平成 24 年 1 月 17 日
調査対象者	黒滝地区 部落長

ヒアリング内容

1) 住民の状況・特徴について

(人口・世帯)

- ・この地区は、人が少ない。黒滝は3世帯、5人。桑ノ川は4世帯、5人。大改野は3世帯、3人（内2人は現在入院中）。中ノ川は2世帯、4人である。
- ・最盛期は黒滝でも50人ほどいた。小中学校あわせて、140～150人いた時もあったが、ダムによる立ち退き、鉱山の閉鎖、営林署の移転などにより、現在に至っている。

2) 交通手段について

- ・現在、移動に困っているということはない。皆、自家用車を使っている。
- ・20年ほど前、市が通院のためのマイクロバスを月1回運行していたが、利用者がいなくなり廃止となった。人によって診察の時間が異なるので時間待ちが嫌であったのだろう。
- ・2年くらい前までは個人での移動販売があった。

(行き先)

- ・買物先は、いろいろだが、間に合わせの商品はAコープくれだに行っている。週に1回行き、まとめ買いをしている。
- ・通院は、吉川診療所と高知大学医学部附属病院である。

3) 公共交通の活用について

- ・今は皆免許を持っているが、高齢で免許更新できないこともあるので考えなければならぬだろう。

(7) 奈路

調査日時	平成 24 年 1 月 16 日
調査対象者	奈路地区 部落長

ヒアリング内容

1) 交通手段について

- ・今は、高知県交通のバスが走っている。毎年、地元から高知県交通に運行継続を要望している。バスの存続を優先している。
- ・高知県交通からは、運行休止にしたいという話は入っていない。
- ・現在移動に困っているという声は聞かない。今は、ほとんど（高齢者は）家族の車で移動している。
- ・介護の人は、デイサービスの車が週 1、2 回迎えに来る。

(行き先)

- ・高齢者の主な外出先は、買物、病院である。
- ・買物は、久礼田のAコープ、土佐山田のサンシャイン、そしてサニーアクシスなど。距離では後免も山田も同じくらいだが、時間的には山田が早い。
- ・病院は、吉川診療所、JA高知病院、高知大学医学部附属病院など。

2) 公共交通の活用について

- ・通院するのに、領石でバスに乗り換えるということは、時刻調整が無いため、(待ち時間が長く) 通院する方の体力では、耐えられない。
- ・今は、路線バスの継続のほうが良いと考えている。
- ・小学校のスクールバスが奈路地区専用になったので、これを活かさないかという声が出たが、教育委員会の考えもあるので、無理だろうと考えている。

3) 乗合タクシー(デマンド運行)について

- ・(乗合タクシーが) 上倉まで行って、奈路にも寄るということなら、状況次第で検討することもありうる。
- ・料金はどのくらいになるのか。料金設定は、1人1回いくらという、固定料金を設定すべきだと思う。タクシー料金の半額くらいが上限になるだろう。

(8) 田村（高田）

調査日時	平成 24 年 1 月 16 日
調査対象者	田村(高田)地区 公民館長

ヒアリング内容

1) 住民の状況・特徴について

(人口・世帯)

- ・日章地区全体は、人口が多い。3,000 人ぐらいいる。

2) 交通手段について

- ・高齢者の移動は、自家用車、身内の車かタクシーである。
- ・遠くへ行く場合は、鉄道を使っている。立田駅は駐車場がないので、後免駅を使っている。

3) 公共交通の活用について

- ・以前この周辺で東西にバスを通すという話があったが、一部地権者の反対があり中止となった。

(バスについて)

- ・現在の空港通りよりは、この周辺を通るほうが需要はある。人家が多い。
- ・ルートを変更するなら、スポーツセンターにバスが入るようにしてほしい。センターには駐車場が少なく、定時運行バス路線もないから、何かの大会のたびに、臨時バスで他の臨時駐車場からピストン輸送をしている。
また、予防医学の観点から、バスを通して、北部の人もスポーツセンターを利用できるようにしたらよいと思う。
- ・バス停留所が遠いと高齢者は歩いていけない。小型のバスで小回りの利くルートにしてほしい。
- ・月水金、火木土とかルート分けできないだろうか。2ルートあるほうが利便性が高いと思う。

(9) 田村東部

調査日時	平成 24 年 1 月 16 日
調査対象者	田村東部地区 公民館長・民生委員

ヒアリング内容

1) 交通手段について

(行き先)

- ・高齢者の行き先は、スーパーか病院である。買物は、サニーマートへ行っている。病院は、JA高知病院が多い、それと高知大学医学部附属病院である。また、藤原病院の送迎車も入っている。隣りがサニーマートで便利である。
- ・デイケアの送迎車はよく見る。

(交通手段)

- ・独居で無免許の高齢者は、買物にタクシーを使う人もいるが、たいていは身内の人に頼むか近所の人に行ってもらっている。
- ・それ以外の高齢者は、自家用車を使う。誰かが免許を持っているから、自分が運転できない場合は身内に頼んでいる。
- ・今は、マイカー中心であるが、みんなが高齢者になったときにバスを利用する時のことを考えると、現在のバス路線は、高齢者が使うにはバス停が遠すぎる。
- ・近所の人に頼まれると車で目的地まで送ってあげることができるが、反対に、こちらからの声掛けは気兼ねしてできない。

2) 公共交通の活用について

(ルート)

- ・以前はバスが南北に通っていたが廃止になっている。
- ・この地区は、空港の騒音等の影響がある地域なので、配慮をしてほしい。採算は取れないだろうが、前浜から後免までバスルートを通してほしい。

(活用について)

- ・とりあえず、今のマイカー中心のライフスタイルは変わらないだろうが、将来的にどうかという視点で考えてもらいたい。

3) その他

- ・高齢者に対応した道路対策も必要だ。南北の県道は道路が狭く、車がスピードを上げて通過するので、たまに自転車で通ると怖い。

(10) 下田村

調査日時	平成 24 年 1 月 16 日
調査対象者	下田村地区 常会長・副会長

ヒアリング内容

1) 住民の状況・特徴について

(人口・世帯等)

- ・80歳以上の方が、12、3人いる。車には乗っていない。
- ・地元には商店が無いので不便である。

2) 交通手段について

(行き先)

- ・買物の主な行き先は、高知市内か香南市の赤岡である。後免へは、行くバスの便がないし、店が少なく、必要なものがあまりない。
- ・通院は病院の送迎車を利用したり、JA高知病院へも行く。

(ニーズ)

- ・バスへのニーズはあまり聞かない。農家は行政を当てにしないでやる気風があり、身内の車などで、自分たちで対応している。

3) 公共交通の活用について

(用途)

- ・主な目的は、買物・通院である。

(ルート)

- ・以前は前浜に農協の支所があったが、今は日章支所に統合されている。農協に口座を持っている人が多いので、日章の農協支所前をバスが通ると便利だろう。
- ・バスルートがあれば、JA高知病院へ行くだらう。
- ・高齢者にとって、バス停までの距離は重要である。
- ・前浜パークタウン線と、後免方面へのバス路線との乗継が悪い。

4) その他

- ・バスのことだけでなく、市全体の都市計画的な見直しが必要であり、その中でバスを位置づけるのが良いのではないか。
- ・後免については、現状では何も魅力がない。行きたいところにしないといけない。それからバス路線という話ではないか。
- ・病院が1カ所に集まった、「病院ゾーン」があるといいと思う。